

ひとでなし

雨和七瀬

人間だった頃の記憶って曖昧

皆にとって私が人間じゃなくなったのはいつ？

もう人間じゃないから関係ないか

人間じゃないから人間を嫌っても良いんだ！

でも人間じゃないふりも難しい

人間は頭がいいから、嫌われると反撃してくる

ああ、ここで人間のラベルをはく奪されたのね

誰の体温も鼓動も感じない日々が嫌になった

ベランダから着地点を覗いて、怖くなったんだ

私を抱きしめたら、それは生き物だった

本当に人間じゃなくなるしかなくなっちゃった

欲望を本能に挿げ替え、画面の中で勇者になった

生きる目的を消費し続けた

頭がよくなつてから名案が浮かんだんだ

私が嫌いだと感じる相手は人間じゃないのでは？

そんな傲慢さが、私を人間にしてくれた

人間の形を保てるようになったんだ

人間は好き、みんな優しい、みんな賢い

私のこと、人間だって思ってる

今度は私にとって私が人間じゃなくなっちゃった

私が嫌い、馬鹿なのに好き嫌いする

みんなは人間の姿をしていけば仲間だと思うんだ

みんなにもっと早く会いたかった

そしたら私は人間じゃなくなる必要なかったんだ

何だったんだ

何だったんだ

何だったんだ

どろどろになった姿を、鏡を見ながら整える

優しくて賢い人間を騙してる

この、ひとでなし

あはは、劈くほどうるさくて、声にもならないね